

目標設定に関する考え方

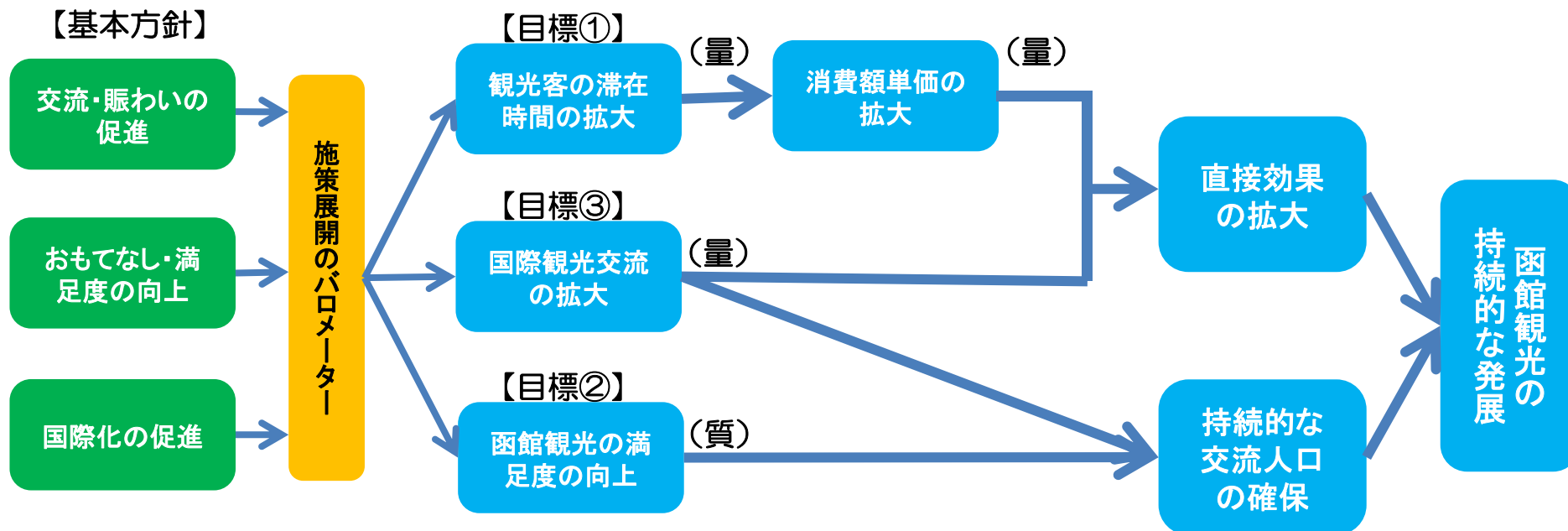
1. 目標設定における基本的な考え方

現計画においては観光入込客数の増大を第1目標としているが、我が国における本格的な人口の減少化社会の到来に伴う観光交流人口の拡大は期待できない。そのため、今後は観光客数という量的目標の設定ではなく、滞在時間や域内消費額といった質を高めることが重要であると考えられる。

したがって、次の計画では観光客の滞在時間の延長を図り、域内での消費活動を高めることによる経済的な波及効果を増大させることを1つ目の目標（目標①）とし、基本方針の「交流・賑わいの促進」の評価基準としてする。

次に、函館観光に対する満足度向上を2つ目の目標（目標②）として、基本方針の「おもてなし・満足度の向上」の評価基準として設定する。満足度を高めることにより、再来訪意向が高まると共に、口コミ効果等による新たな観光需要の増大も期待できる。

さらに、日本国民による観光交流人口の拡大は難しいものの、国の積極的な取組もあって、訪日外国人客数は着実に増大していることから、国際的交流人口の拡大を3つ目の目標（目標③）とし、基本方針の「国際化の促進」の評価基準として設定する。特に外国人にとって北海道は冬季に対する魅力が高く、函館市の観光における課題である冬季観光の拡大が期待される。



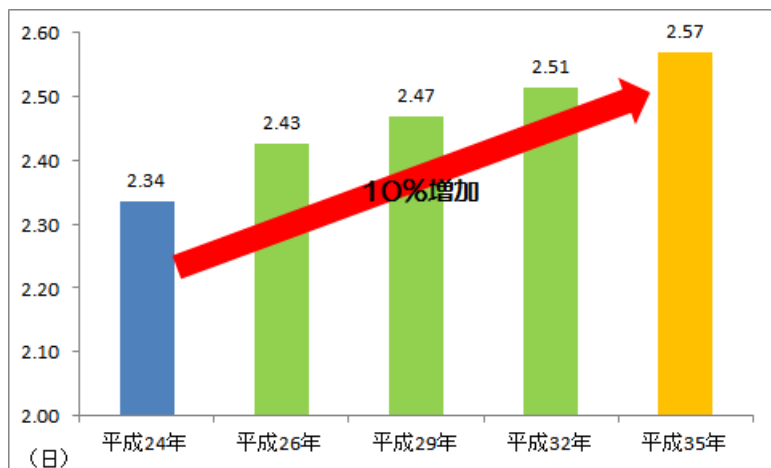
目標設定に関する考え方

2. 目標設定

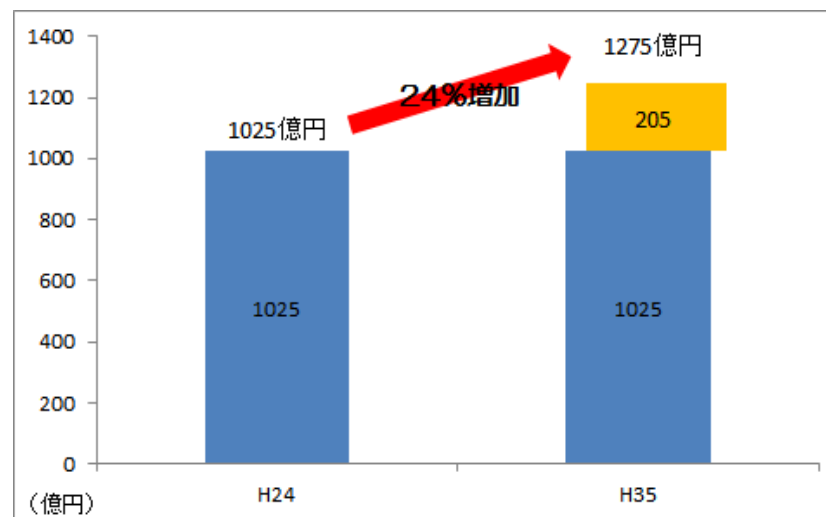
(1) 目標① : 滞在時間の拡大

- ・現在の滞在日数の**2.34日**から**2.57日**に10%拡大する。
- ・滞在日数の拡大により、観光消費による直接効果も拡大される。

【平均滞在日数】



【観光消費による直接効果】※



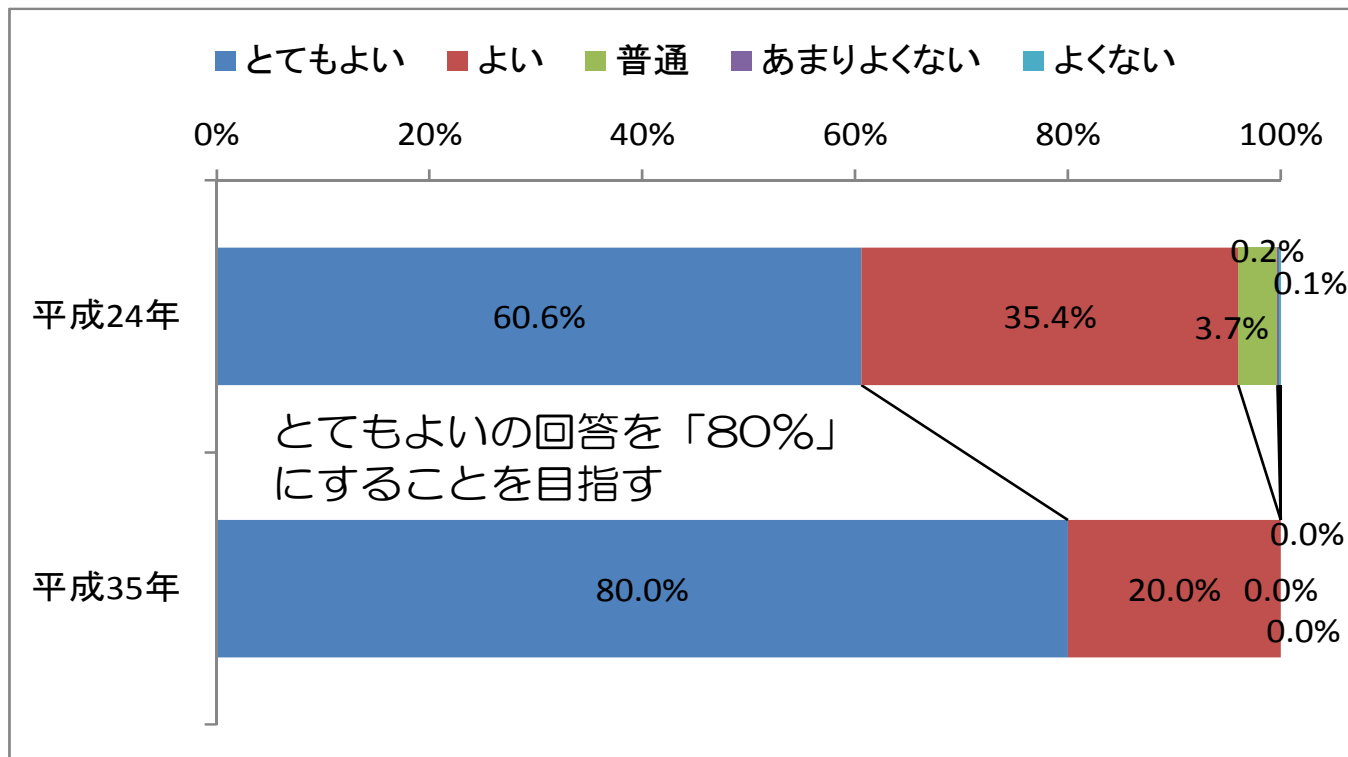
※来函観光客数を500万人と設定した場合の直接効果

目標設定に関する考え方

(2) 目標②： 函館観光に対する満足度の向上

函館観光に対する満足度を高め、再来訪意向の向上や口コミ効果等による新たな観光需要を増大させる。

- ・ 「とてもよい」の割合60.6%を80%以上にすることを旨す

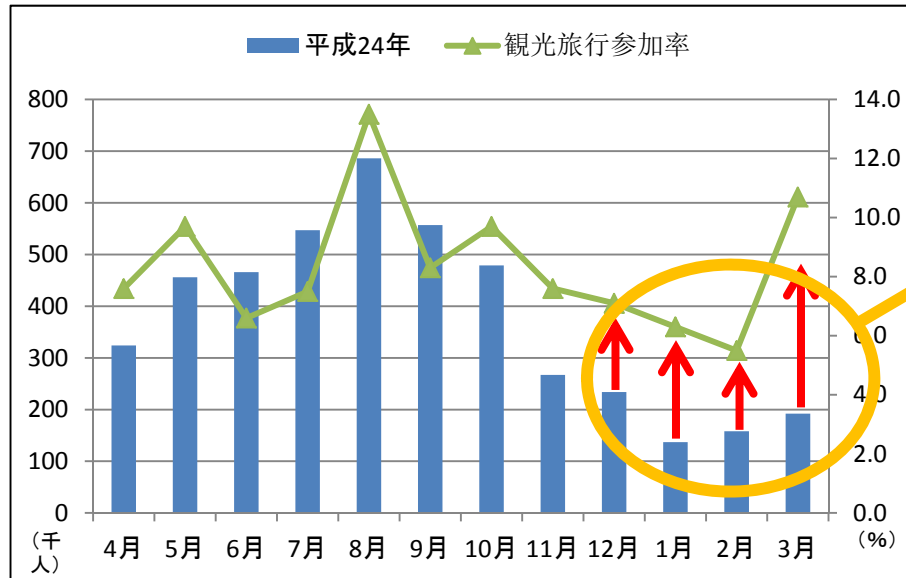


目標設定に関する考え方

(3) 目標③ : 国際観光を中心とした交流人口の拡大

① 冬季の外国人観光入込客を中心とした底上げ

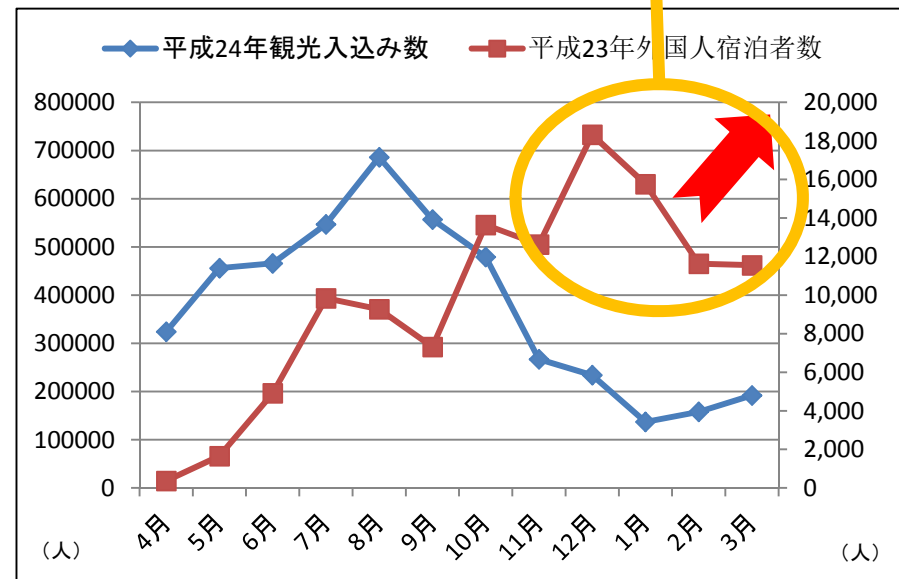
【月別来函観光入込客数】



来函日本人は夏を中心にピークになっているが、来函外国人は冬季を中心にピークとなっているため、冬季の来函外国人をさらに底上げすることが現在の課題解決の重要な鍵となる。

・全国の観光旅行参加率と比較すると、冬季の底上げが課題

【日本人と外国人の来函観光入込客数の月別比較】



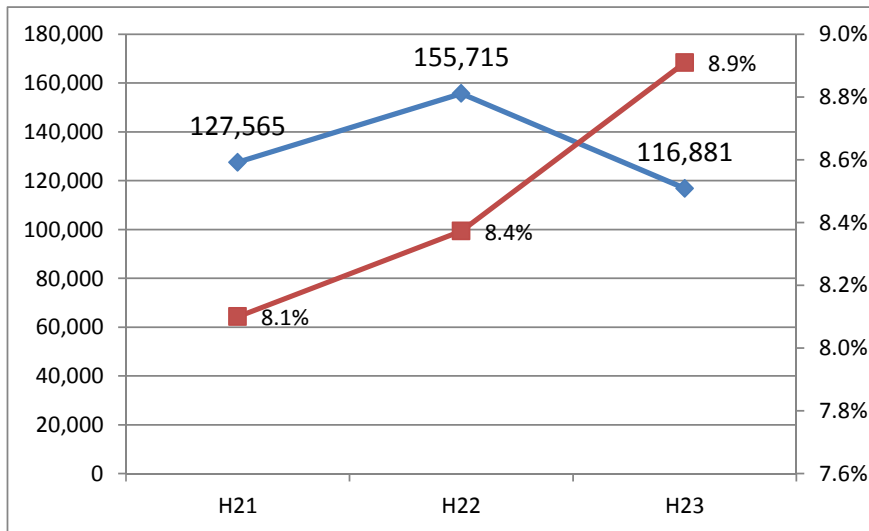
目標設定に関する考え方

② 国際交流人口の拡大

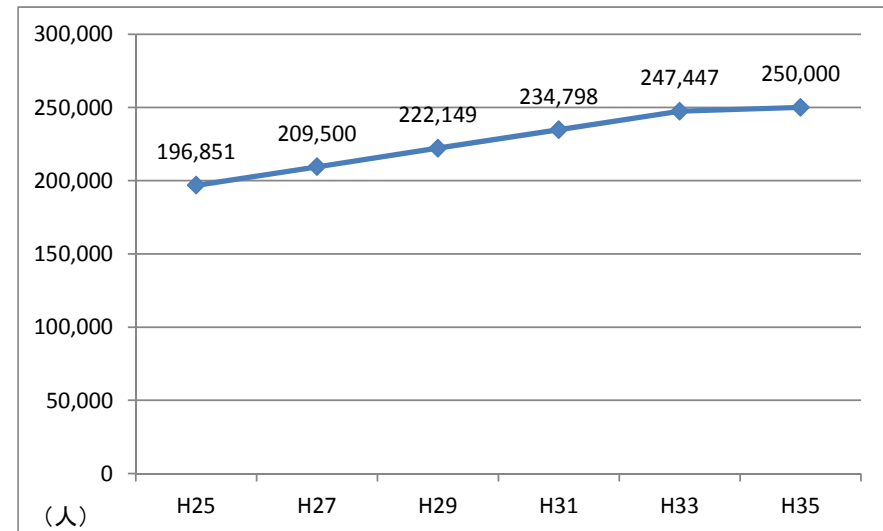
※目標外国人観光入込客数 : 25万人

来道宿泊外国人観光客数における来函宿泊外国人観光客数の占め率が増加傾向にあり、平成21年からのトレンドから平成35年の観光客数を予測すると、21年の8.1%に対し、平成35年には16%に倍増する見込み。

因みに、この訪問率の将来予測のもと、平成35年度の来道宿泊外国人観光客数が平成21年度と同一とした場合、平成35年度の来函宿泊外国人観光客数は25万人になる。



(来函宿泊外国人観光客数と対来道宿泊外国人観光客数に占める来函宿泊外国人観光客数)



(対来道宿泊外国人観光客数における占有率の傾向からみた来函宿泊外国人観光客数の将来予測)